姫路市医師会
訪問看護（ほうもん かんご）ステーションだより

No.013　2004.10発行

居宅介護支援事業所
姫路市医師会訪問看護ステーション　姫路市西今宿3-7-21 TEL0792-95-3377

４年に一度のスポーツの祭典も終わり静かな季節となりました。悲喜こもごもの涙が溢れ、まさに、つわものどもが夢のあとですね。度重なる台風にも負けずにコスモスの花が咲いています。１秒を競っていた暑い季節から今度は時の流れを感じる雅な季節を楽しみましょうか。

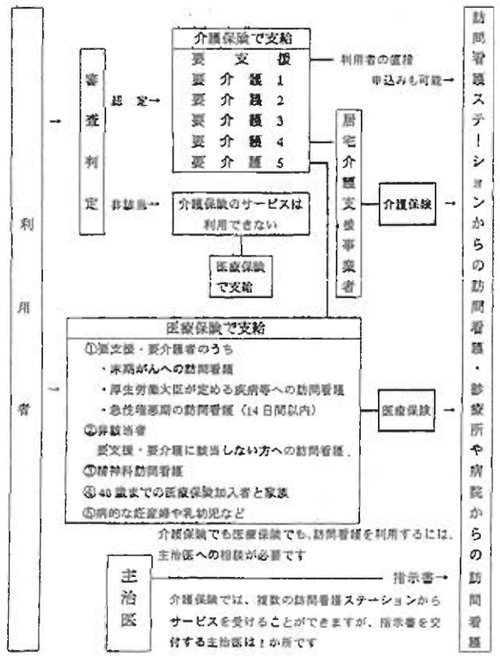
訪問看護ステーション委員会
泉　徹 先生

皆さんこんにちは。ツカザキ記念病院の神経内科の泉と申します。
神経内科とは、脳、脊髄、末梢神経、筋肉などの病気を　対象とする診療科です（脳卒中、パーキンソン病等）。よく誤解されるのですが、心の病を対象とする心療内科とは明確に区別されます。
私達、神経内科領域の訪問看護は、ほとんどの患者さんが寝たきりで、中には気管切開、経管栄養を行っている患者さんもあります。どうしても濃厚な医療の介在が必要で、看護師さんには大変お世話になっております。
訪問看護の充実に伴い、病院の中でしか成しえなかった医療が在宅で可能となりました。患者さんにとって、住み慣れた自宅で暮らす事が何より幸せなことです。不幸にして病気になっても在宅で暮らせるように訪問看護によるバックアップを、皆さん今後ともよろしくお願いします。

私達訪問看護師も、少しでも患者さんの役にたてるよう、先生のように日々努力していきたいと思います。

訪問看護は、年齢や疾病等によって、適用される保険（介護保険・医療保険）が異なります

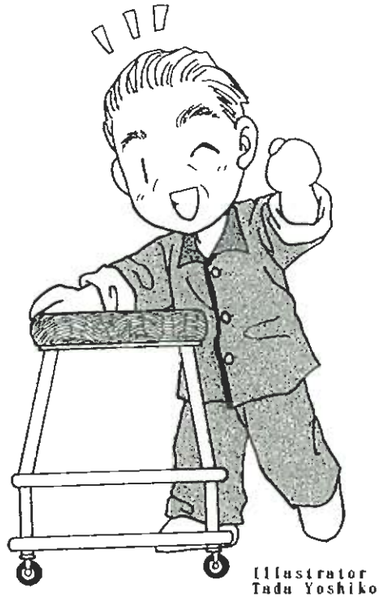
1．訪問看護サービス開始までの流れ



制度・利用に関してはお気軽にステーションにお尋ね下さい

ナース よもやま話

たががリハビリ、されどリハビリ。



Ｔさんは８０才、聡明な方です。
１０年間パーキンソン病とのお付き合い。
「自分の事は自分で」がモットーです。一日のうちの体調変動が激しく、気持ちも大荒れと抑うつを繰り返えされている状態でした。大荒れの日は私の顔を見ると「帰って下さい」と丁重な挨拶をされるものの杖でベット柵をガンガン叩かれている状態でした。無理強いするとお嫁さんに八つ当たりされるので、そんな日は庭先で介護者であるお嫁さんの介護相談主体の訪問となります。薬の飲み方をよく話し合い、日中は比較的安定して過ごす事ができました。

そして少しでも気分いい日を見計らって屋内で歩行器を使用しての歩行練習を行いました。Ｔさんのやる気と根気でどんどん歩ける時間は長く、抑うつ気分は短くなり自分への自信が戻りました。現在はお気に入りのデイケアへ出かける日が続いています。畳がすり切れるほど頑張ったＴさんに拍手！

ペンネーム・（ステーションで一番若手の）あられちゃん

トピックス

「痴呆」に替わる呼称、厚労省が「認知症」など６案

厚生労働省は「痴呆」という呼称の見直しを議論している同省の検討会に、「認知症」「もの忘れ症」など代替用語の候補を６案提示した。今月中旬から同省のホームページで公開して国民の意見を募ったうえで、１１月末までに正式決定する。代替用語の条件として①分かりやすく短い②不快感や侮蔑（ぶべつ）感を覚えず気持ちを暗くさせない③「痴呆」と同じ概念を表し混乱なく通用する　の３点を挙げた。
その上で記憶や判断などの知的能力を表す「認知」の障害が「痴呆」の本質だとして「認知症」と「認知障害」を中心に新しい用語を考えるべきだとした。ただ他の候補を推す委員もいることから、ホームページ上で今回提示案以外の新用語も国民から募集し、さらに議論を詰める。呼称変更を巡っては、「痴呆」はべつ視的な意味合いが強いとする関係者らの指摘を受け同省が６月に検討会を設置、議論を進めている。新たな呼称が決まれば来年度の介護保険法改正に合わせて同法などの「痴呆」の記載を変更する方針。

９月２日・日本経済新聞より